

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇学校経営	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒、保護者とも多くのアンケート項目で、肯定的意見が増加し、否定的意見が減少しており、全体的に改善されている。 ・「本校に入学できてよかった」と思う生徒が増え、YCKプロジェクト等本校の特徴ある取り組みへの理解も深まっている。 ・保護者についても「子どもは喜んで学校に行っている」の肯定意見は90%を超えている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇地域とともにある魅力ある高校づくりを進める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・企画、職員会議 ・活力ある高校づくりワーキンググループ (WG)	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① コミュニティ・スクールの機能を充実させることで、教職員・地域住民・保護者による目標・ビジョンの共有を図り、学校関係者が持つ専門性やネットワークを生かした学校運営を行います。 ② 「普通科」、「理数科」それぞれの特色ある教育課程により、地域人材や教育資源を活用した魅力ある教育活動に取り組みます。 ③ ふるさと教育の推進と飛騨市学園構想により、課題解決に取り組む学習を充実させます。	①③ 学校運営協議会委員、保護者による評価 ② 中学生の進路希望調査、1日入学及びオープンスクールへの参加者数、生徒・保護者による学校評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・「地域連携による活力ある高校づくり推進事業」実践校として地域人材の有効活用と課題解決型学習の開発（「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の事業特例校として国の指定） ・新学習指導要領施行に向けて本校の教育目標実現のための教育課程編成 ・「理数教育フラッグシップ推進事業」の実施	① 地域とともに魅力ある高校づくりを進めることができたか。 ② よりよい教育課程編成に向けて共通認識を持つことができたか。 ③ 理数教育の充実を図ることはできたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	総合評価	
○コロナ禍ではあったが、ICT機器を活用しながらリモート実施や感染対策を講じて少人数での実施など創意工夫しながら地域連携を進めた。 ○令和4年度以降の教育課程編成について教員間で活発な意見交換や情報共有ができた。特に活力高校づくりワーキンググループを中心に総合的探究の時間の実践内容について検討が深まった。 ▲コロナ禍のため、様々な活動が制限され、直接地域の方々と触れ合う中で課題解決に取り組むことは困難であった。 ▲単位制の高校となり、それぞれ科及びコースの進路実現を目指した教育課程編成については、学校全体でより一層取り組んでいく必要がある。	A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案	・コロナ禍の現状が続く中で、ICT機器を活用しながら地域連携できる方策を今年度中に計画する。 ・教育課程編成について教育課程委員会の委員以外の職員にも研修等を通して共通理解を深める。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月5日

【意見・要望・評価等】 ・コロナ禍により制限された中においても成果が得られており、今後もYCKプロジェクトの推進とICTを活用した学校活動の創意工夫に努めてほしい。 ・十分評価できる実施内容ではあるが、システムとして地域連携が構築されるには、一層の議論の必要性を感じる。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号	60
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 教科指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・臨時休校や教員数減で習熟度別授業ができなくなった影響が、肯定的意見のポイント減につながっていると思われる。 ・「総合的な探究の時間」等の取組については生徒の理解が深まっており、その成果について生徒自身が肯定的に捉えているとうかがえる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 授業改善と学習指導の充実に努め、確かな学力を育成する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・各学年会及び教科会 ・公開授業や研究授業、教員研修会 ・教育課程委員会及び学習指導委員会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 基礎的基本的な知識・技能の習得を図るとともに、アクティブラーニングを推進し、思考力、判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、新しい価値を創造する力を身に付けさせます。 ② 少人数学級や習熟度別授業、進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援を行います。 ③ ICT機器を活用した学習活動を充実させる中で、公開授業、研究授業を計画的に行い、生徒が主体的・協働的に取り組むことのできる場を多く作ります。	① 生徒による授業アンケート、教員相互の評価 ②③ 授業アンケート、卒業生アンケートの評価、生徒・保護者等による学校評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・研究授業や公開授業による指導力向上 ・アンケート・調査による学習活動の点検と改善 ・初期指導による高校での学習活動の定着 ・各分掌における到達目標の設定と評価 ・各教科の授業改善	①授業は改善されたか ②家庭学習時間が確保されているか ③個に応じた学力は身に付いたか ④教育活動は円滑に行われているか ⑤生徒は満足しているか	A (B) C D A B (C) D A (B) C D (A) B C D (A) B C D
11 成果・課題	○普通科の進路希望別クラス編成における総合コース・学び探究コースそれぞれの教育課程で、概ね意欲を持って学習に取り組んでいると思われる。 ○新学習指導要領下での教育課程について多くの意見を取り入れ、議論を深めることができた。 ○総合的な探究の時間では、新聞を使った「探究のプロセスを学ぶ」や「地域の大人と語る会」「大人から学ぶ未来デザイン」などの本校独自の探究活動により、コロナ禍にもかかわらずWeb会議システムを活用することで、主体的な学びの場を増やすことができた。 ○コロナ禍での各中学校での高校説明会が中止となったが、本校の教育活動を理解してもらうための中学生保護者説明会「吉城高校が目指すものは」（2回開催）には多くの出席を頂き、高校選択のミスマッチを防ぐよう努力した。 ▲学習（観点別）評価や科目横断授業の構築が今後の本校の課題である。	
12 来年度に向けての改善方策案	・1人1台タブレット導入により授業そのものが大きく変化する。研修を重ね、授業改善を進めたい。 ・生徒が「やらされる学習」から「主体的な学び」へと変わることのできる、教科や総合的な探究の時間の仕組みを構築したい。 ・新学習指導要領（令和4年入学生より学年進行）下での教育課程の議論が深まり、生徒や保護者はもちろんのこと、地域の方々に応援していただける教育課程を作成したい。学習（観点別）評価や科目横断授業についても検討を重ねたい。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月5日

【意見・要望・評価等】 ・重点目標の見える化（数値目標）により、問題点が明らかになり生徒の意欲も増えるのではないかと。 ・ICT機器導入は、わかる授業、基礎基本の習得、全員参加型の授業展開の実現に期待できる。公開授業等で教職員間の更なるスキルアップを図って戴きたい。 ・やらされる学習から主体的な学びへ、授業改革を進めてください。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・社会のルールやマナー、身だしなみについての指導については生徒、保護者共に肯定的意見が90%以上である。また、いじめに対する指導への生徒の評価は年々肯定的意見が多くなっており、生徒の意識の向上がなされていると考えられる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇共感的な理解に徹することを継続していき、望ましい人間関係と自己指導能力を育てる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導委員会・いじめ防止等対策検討会議 ・スクールカウンセラー・各学年会・職員会議 ・生活委員会・MSリーダーズ活動	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①「生徒指導の指針」「いじめ防止基本方針」をもとにした、指導の共通理解、共通行動を行う。 ②生徒の状況を常に把握し、職員間で情報を共有し日常的な教育相談活動と生徒支援を行う。 ③学校生活を通して集団の一員としての自覚と規範意識を高め、自律心、判断力、責任感のある、他人や社会との関係性を尊重できる個人を育む。	①生徒・保護者・職員への生活安全調査 ②いじめ防止等対策検討会議での評価 ③生徒・保護者による学校評価、身だしなみ指導件数、ネット・SNSによるトラブルの増減等	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・いじめ、心の悩み対策として、年間2回の生活安全調査の実施、年間3回のいじめアンケート、月1回の心のアンケートの実施。いじめ防止等対策検討会議実施。学校安心安全チェック（月一回） ・学年会・職員会議における配慮の必要な生徒の情報交換。・スクールカウンセラーの活用。 ・日常の生活指導（登校指導、交通指導、巡回指導情報モラル指導、身だしなみ指導）の実施。 ・SNSトラブル回避の啓蒙活動・人権LHR	①いじめ問題は起きてても被害生徒が不登校となる重大事案は起きていないか。 ②生活安全調査やアンケート等の結果を学年会・職員会議で共有できたか。 ③生徒、保護者対象の学校評価数値は昨年度より改善したか。問題行動の件数の増減。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○いじめ問題について、小さな問題とせず、方針に則り、組織的に対応できた。 ○問題行動に対しては、学年会と協力し、迅速な対応ができた。 ▲コロナ禍もあり、心の健康を保つのに困難を抱える生徒が多くおり、スクールカウンセラーの希望が例年以上に多かった。 ▲SNSに起因する問題行動は依然としてあり、予防活動に力を入れる必要がある。	
12 来年度に向けての改善方策案		
・教員間の情報交換を密にして、生徒の困り感や悩みに寄り添い、問題の早期発見、早期対応に一層心がける。 ・問題行動やいじめ問題の予防に力を入れたい。 ・スマホの使い方、付き合い方に重点を置き、家庭との協力体制でスマホに依存しない生活を啓発していく必要がある。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月5日

【意見・要望・評価等】 ・スマホ依存は社会的にも問題である。啓蒙活動を引き続き実施されることが望まれる。 ・スマホについては依存からの脱却だけに目を向けるのではなく、スマホの特性を把握し指導の一環として使い方について取り組む必要がある。 ・コロナ禍の中、抱えきれない焦燥感の中で、学校生活の中で様々な信号を発信している。アンテナを高くし、きめ細かく生徒に寄り添い、状況の重さにより、スクールカウンセラーの活用も躊躇なくなされることが望ましい。 ・コロナ禍で生徒たちも心がしんどくなってきていると思われる。心の病にならないように手をさしのべてほしい。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。
----------	--

2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・進路と学年が連携して指導にあたった成果が表れている一方で、コロナ禍のために中止になった説明会や進路行事を十分に補うような進路に関する情報提供の機会が確保できなかった。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒が主体的に将来にわたる進路を設計できるように計画的・組織的に支援する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部 ・進路検討委員会、小論文等指導委員会、学習指導委員会 ・キャリア推進部、活力ある高校づくりワーキンググループ、教務部、各学年会との連携	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 生徒が生きがいをもってライフプランニングができるよう望ましい職業観や人生観を育成する。 ② 高大接続改革に対応し、3年間を見通した進路指導計画(補習、模試面接小論文指導等)を確立して生徒の進路実現を支援する。 ③ 生徒、保護者、職員にとって必要な進路情報を提供するとともに個に応じた支援を行う。	① 進路希望調査の結果や説明会等での生徒感想文 ② 大学入学共通テスト出願者数、大学合格実績、公務員合格率等 ③ 各種調査及び模擬試験等の結果	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・総合的な探究の時間や、YCKプロジェクトへの参加・振り返りで自分の在り方や生き方を考え、進路希望を実現する。 ・補習に加え、面接・小論文指導を早期にスタートし、全教員による個別指導の充実を図る。 ・進路説明会、分野別説明会等を開催し、進路希望の選択・実現を支援する。	①早い時期に進路目標を設定できたか。 ②学力が向上し、情報を分析して自分の意見をまとめる力はついたか。 ③希望する進路を選択・実現しているか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果課題	○就職、公務員試験、大学の総合型選抜・学校推薦型選抜で、一人の生徒に対して最低一人の指導教員(場合によっては複数の教員)が担当することに加えて、地域の住民・企業の方々にもご協力いただきながら、進路指導を行うことができた。 ○コロナを題材にした地域社会との学習交流会を実施するなど他分掌と協力しながら、探究活動の在り方を模索できた。 ▲コロナ禍で保護者説明会など多くの進路行事が中止になる一方で、それを補う進路に関する情報提供が十分にできなかった。	
12 来年度に向けての改善方策案	・コロナ禍が今後も続くという前提に立ち、オンラインなどを活用した十分な進路の情報提供の在り方を検討していく。 ・生徒の進路実現に資する探究学習を、他分掌と連携しながら研究、実施していく。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月5日

【意見・要望・評価等】 ・大学合格実績、公務員合格率などわかりやすい指標である。学校経営においても重要な指標となるので今後より力を入れて指導していただきたい。 ・生徒の細やかなライフプランの構築に今まで以上に指導の重点をおき、進路意識を内面から育て個々の進路実現のモチベーションを高めるような指導を実施していただきたい。 ・生徒一人に対して最低一人の指導教員が担当するのは、ありがたい。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成す	
2 評価する領域・分野	◇ 特別活動	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学校行事、生徒会活動、部活動関連の項目で肯定的な回答をする生徒の割合が増えており、学校における様々な活動に意欲的に取り組む生徒が多くなっている。 ・「学校は、子どもの成長の糧となるような学校行事を行っている」と回答する保護者の割合も90%あり、学校の情報発信の成果が現れている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 互いに支え合う関係を構築し、好ましい人間関係を作り上げ、豊かな人間性と思いやりのある行動力を育てる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・部活動運営委員会、生徒派遣審査委員会、学校徴収金運営委員会 ・IA014001推進委員会、人権教育委員会、いじめ防止等対策検討委員会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① ホームルーム活動を中心に、生徒会活動、部活動、委員会活動等の諸活動を通じ、生徒たちが協働し、集団の中で望ましい人間関係を構築することを支援します。 ② 生徒が熱意を持ち、積極的に柏葉祭等の生徒会行事に取り組み、地域や社会、他者へ目を向け、自ら考え行動できる態度を育成します。 ③ 生徒が目的を持ち、自主的・自発的に部活動に参加できる環境を整備します。	①② 球技大会及び柏葉祭等の生徒会行事への取り組み状況、アンケートの実施とその結果分析 ③ 部活動予算及び備品請求の配分・部活動参加人数、入部状況・部活動実績・活動場所及び施設使用状況	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・様々な生徒会行事に向けて執行部会等諸会議を開催 ・広報活動により校外へ積極的に情報を提供 ・部紹介、伝達表彰を実施するとともに、部活動費及び備品費を適正に配分し、活動環境を整備	① 球技大会・柏葉祭等の諸行事に達成感を味わらせることができたか。 ② 校内外で行事への取り組みの理解や支持を得ることができたか。 ③ 目的意識を持って、積極的に部活動に参加させることができたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○コロナウイルスの影響で例年とは異なる形となったが、制約がある中で工夫を凝らして開催できた。次年度に活かしたい。 ○部活動への参加が今年度から1年生も自由参加となったのにもかかわらず加入率は例年並みとなった。写真部・美術部の全国大会出場に見られるように、生徒が部活動に意欲的に取り組み、多くの成果を挙げることができた。 ○球技大会、柏葉祭など生徒会役員が積極的に参画・運営した。 ▲学校生活での様々な活動において生徒の自主的な行動を促すことはできているが、主体的な行動を促すことはできていない。現在行っている特別活動の見直し、業務改善を積極的に行い、生徒が主体的に活動できる場、時間的余裕を生み出すことが必要である。	
12 来年度に向けての改善方策案		
特別活動において、生徒会執行部、委員会等の活動がオペレーショナル化し、手段の目的化が起こり、そのため生徒の主体的な活動を促せていない。その原因として生徒の多忙化(特に放課後)があげられる。生徒の多忙化を解消するため、これまで行ってきた活動を一から見直し、生産性の低い活動の改善、廃止等を積極的に行っていく。また、他の分掌との連携を図り、生徒の負担とならないよう調整を行う。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月5日

【意見・要望・評価等】 ・教育目標に掲げられた『自主性・個性と能力・知性・創造性・実践力』は特別活動の本丸で、本年もこの具現化を実践された。特にこのコロナ過、過去に想定しない事態の中で様々な取り組みを試行錯誤し、成果をあげた。選択肢として最大公約数で最善と思われる。 ・コロナと向き合いながら、様々な活動をどう行っていくのかを生徒自らも考えることは、今後社会に出てからも良い経験になる。
--

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成す		
2 評価する領域・分野	◇ 健康安全指導		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・清掃に関しては、昨年度大幅に向上した結果が一昨年前に戻ってしまった。 再度生徒のみならず職員の美化意識を向上させていきたい。 ・健康管理については、養護教諭を中心に、各検診・検査の事後指導等生徒の健康管理面については常に配慮できている。 ・安全・衛生面では事務部との連携により、早めの対応ができている。 ・非常変災時対応について肯定的意見が上昇した。全生徒に危機管理マニユ		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 自らが健康で安全な生活を営む能力や態度の育成、環境美化を通じて豊かな心の育成を図る。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学校保健安全委員会、安全衛生委員会 ・生徒保健委員会、生徒環境委員会、防災リーダー		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
① 健康診断や防災教育を通じて、自らが健康で安全な生活を営む能力・態度の育成を図る ② 日々の清掃活動、マナー教育(公共施設の利用)を通じて、豊かな心の育成を図る。	① 季節に合わせた健康意識向上放送、健康診断受診勧告者受診率、命を守る訓練(様々な災害を想定)、災害図上訓練実施前後比較、非常変災時帰宅確認報告率、生徒・職員による安全点検、防災士取得数 ② 生徒委員会・職員による環境・清掃状況チェック		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・生徒個人への受診勧告、健康相談、ポスター掲示等での健康面の啓発活動。保健講話の実施(講師作成DVDによる視聴)、新型コロナウイルス感染症対応。 ・職員へのアレルギー対応研修、部活動時、日常生活における事故防止の事前指導。 ・月1回の職員による安全点検、非構造部材の日常点検。職員・生徒による教室環境衛生点検、行事前清掃点検。環境委員によるゴミの分別収集と季節環境整備(草むしり、落葉清掃)、トイレ使用マナーの励行、環境衛生日常点検での教室環境への整備意識づけ。保健委員によるトイレ環境衛生点検。全職員対執務室清掃アンケートの実施。 ・命を守る訓練(4回)。防災リーダーによる災害図上訓練(2学年対象)。 ・災害時備蓄品(全校生徒・職員3日分)の整備。災害対策マニュアル全生徒職員配布。	① 生徒の健康管理 ② 事故防止 ③ 安全管理、環境整備 ④ 防災	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
11 成果・課題	○飛騨市と連携した保健講話は、クラス単位での命の大切さをテーマとしたDVD視聴となった。 ○清掃に関しては、生徒・職員による点検、保健厚生部による行事前清掃点検にて環境美化を促したが、更に意識向上させる方法が必要である。また、全職員による細部にわたる安全点検や非構造部材の日常点検により、事前に危険箇所等への迅速な対応ができた。 ○防災に関しては、2年生防災リーダーによる飛騨市主催の災害シミュレーションゲーム「風水害24」に参加、2学年対象によるクラス単位でのオンライン使用による災害図上訓練を行った。訓練後の減災力テストの結果が目標値に達することができ、今後更に内容を深めていきたい。また、昨年度より取り組んできた防災士資格取得に、防災リーダー・地学部を含め9名が講習会参加し資格取得を目指している(昨年度6名合格)。 ○命を守る訓練には全生徒真摯に取り組んでいる。非常変災時帰宅確認報告率は向上した。災害対策マニュアルを見直し、全生徒・職員に配布し説明する機会を設けた。 ▲健康診断受診勧告者受診率は、本年度コロナの影響で実施時期が遅くなったため低くなった。引き続き未受診の生徒に対し受診を促す必要がある。		
12 来年度に向けての改善方策案	・新型コロナウイルス感染症を踏まえた生徒職員の安全性を第一に考えた行事、事業の見直しが必要である。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月5日

【意見・要望・評価等】

防災士資格取得への経年的な取り組みは評価できる。近い将来南海トラフ大地震が想定されている現在、防災に対する危機管理能力向上のための活動を盛り込んで欲しい。安全衛生や5Sも参考にして欲しい。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成す	
2 評価する領域・分野	◇ キャリア推進	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・コロナ禍の中で活動を自粛したプロジェクトがほとんどであったが、できることを模索しながら外部人材に協力していただき、また飛騨市等とも連携しながらプロジェクトを推進することができた。 ・学校評価アンケートによるYCK活動に対する評価について、保護者・生徒の肯定的評価が、昨年度 84.4%・93.7%から今年度は 85.4%・90.6%となっている。コロナ禍の影響で生徒の活動が減ったことから生徒のアンケート結果が 3.1%下がったことは残念であるが、保護者の理解は深まっている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム」の実践を通して教育の質を高め、生徒の進路実現に生かす。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・キャリア推進部の中に地域創生キャリアプランナーを配置し、キャリア教育コーディネーターとも連携しながら、学校・行政・地域との連携を図る。 ・活動時間や LHR と「総合的な探究の時間」を併せた運用等について、他の分掌と連携し、指導計画及び指導体制を整備する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 地域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」の活動を通して、生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育てる。 ② 「総合的な探究の時間」等を有効活用し、生徒の社会的・職業的自立を促すとともに、社会の中で自らの役割を主体的に果たそうとする態度を育てる。	① YCKプロジェクトへの参加生徒数 ② 生徒の身に付いた能力を評価する指標の活用 ③ 進路実現	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
【学校設定科目】3活動(3名) 【地域福祉】2活動(140名)【地域教育】4活動(62名) 【地域防災】1活動(96名) 【授業・総合的な学習の時間など】5活動(638名)	① YCKプロジェクトにどれくらいの生徒が参加しているか、適切な振り返りができているか。 ② 生徒の課題解決能力、主体性及び協働して学ぶ態度が育っているか。 ③ ポートフォリオ等を進路実現に活用	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○生徒募集から振り返りまで、プログラムを適切に実施するためのICT活用 ○YCK活動等の取組を生かした進路実現(国公立大推薦入試の合格者増加) ▲主体的・対話的で深い学びのための授業づくりと実践・評価 ▲探究学習を核としたカリキュラム・マネジメント ▲外部人材や地域資源を生かした学びのデザイン ▲探究学習を軌道に乗せるプロジェクト・ファシリテーション ▲教育ファシリテーションの効果、役割とスキル、活用場面とワークシート	
12 来年度に向けての改善方策案 2月下旬よりコロナ禍の影響で、学校教育にも混乱が生じその状態が6月上旬まで続いた。4月より予定していた課外行事は軒並み中止となり、さらに学校設定科目ESD「国際理解探究」の台湾研修も中止となった。 このような状況の中だからこそ課題解決できる力をつけさせたいと、模索し三密を避ける工夫をしながら活動を展開することができた。十分な時間は確保できなかったが、生徒が成長する場になるよう、PDCAを繰り返し修正しながら取り組んできた。来年度もコロナ禍の影響は続くと考えられるが生徒の学びの場を確保し、課題を見つけ課題解決能力を育める経験を多く取り入れる。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月5日

【意見・要望・評価等】 ・今年度は、コロナ禍の影響で参加できる活動が中止になる中、取り組みを工夫することで立派な活動ができており発表の内容もよかった。生徒が足を運んで調べ考えたものこそ価値があったと思う。 ・観光等表面的なことだけでなく住民の幸せや持続可能な地域社会への目線へと深化していることが印象的だった。生徒の一生懸命さが伝わってきた。
--

